東北大学陸上競技部

ＯＢ・ＯＧ通信

2022年No.5（2022.10）

・秩父宮賜盃第５４回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会
兼第４０回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会
------男子が 11/6 に行われる全日本大学駅伝の東北地区代表に選出------

・秩父宮賜盃第５４回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会
兼第４０回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会　２～４ページ
・天皇賜盃第９１回日本学生陸上競技対校選手権大会　５～６ページ
・第３５回国公立２７大学対校陸上競技大会　６～１１ページ
・自己ベスト更新者一覧　１２ページ
・今後の予定　１２ページ
・編集後記　１２ページ

清秋の候、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第54回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会兼第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会、第35回国公立27大学対校陸上競技大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎秩父宮賜盃第54回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会兼第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会(9/26)～北上総合運動公園～

昨年に引き続き、北上での開催となりました。男子は、16km、10kmのロードレースで合計タイムを競い、3大会連続16回目となる全日本大学駅伝出場を勝ち取りました。女子は、駅伝方式(1区5km、2区3km、3区5km)でタイムを競いました。女子チームはオープンでの出場となりました。また、今年はチーム関係者の観戦が認められ、長距離パート以外の部員も現地で応援をしました。男女のリザルトと対校戦に出場した男子選手の観戦記、長距離PCからの全日本大学駅伝への抱負を紹介します。

○リザルト

・男子対校戦結果

順位	大学	記録
1位	東北大学	5時間44分24秒
2位	山形大学	5時間47分09秒
3位	東北学院大学	5時間53分20秒
4位	東北福祉大学	6時間09分25秒
5位	秋田県立大学	6時間29分02秒
6位	弘前大学	6時間37分25秒

	氏名(学年)	記録
16km	工藤大介(4)	52:27
	向田祐翔(2)	52:33
	安本尚生(2)	53:02
	田沼怜(M2)	53:19
10km	木村秀(6)	32:05
	深澤昇悟(2)	33:30
	薮下温司(M1)	33:43
	鳥山拓実(2)	33:45

・女子オープンの部結果

走順	氏名(学年)	記録
1	阿部柚佳(4)	20:00
2	江口真央(1)	11:37
3	小山麻妃(3)	21:24

〇観戦記

・16kmの部

工藤大介(4)　52:27（全体 6 位）

最初から東北大の選手が先頭を引く形になった。8km 過ぎからペースを上げる選手がいたが、ついていかない選択をした。10 km過ぎから徐々にきつくなり、後半タイムを伸ばすことができなかった。

山形大の 2 番手の選手にも負けてしまい、悔しいレースとなった。今回は 10km の選手に助けられたので、本戦では自分がチームを助ける走りができるように頑張ります。応援のほどよろしくお願いします。

向田祐翔（2） 52:33（全体 7 位）

前半 8km までは東北大学主導で 3’15/km で引いていたが、8km 通過から 5000m14 分台を持つ他大学の選手が先行し、その集団につくことが出来ず、12km 通過から 3’20/km までペースが落ちそのままペースを切り替えることが出来ずにゴール。単純な実力不足を感じた。チームとしては 10km メンバーの力走により優勝することが出来たが、課題が残る形となった。

安本尚生（2） 53:02（全体10位）

全日本大学駅伝予選会の 16km の部に出走しました。記録は 53’02 で 1km あたり 3’19 のペースで走り切りました。スタート前から山形大を意識して走っていましたが、序盤にかなり差があると伝令されて余裕かなと思いましたが、中盤追いつかれてしまいどんどん離されてしまいました。12km 以降が非常にキツく、何度も脚を攣りかけました。これは、自分の練習不足に他ならないと思います。自分達が負けてしまい、10km のメンバーには非常に申し訳ない気持ちです。この悔しさは今年の本戦、そして来年の予選会で晴らしたいと思います。サポートしてくださった部員の方々、支援してくださった OB の方々非常にありがとうございました。本戦もよろしくお願いします。

田沼怜（M2） 53:19（全体11位）

・レース展開

マークしていた他大学の 14 分台の選手が飛び出さず、他大学の選手を振り落とすために~8km までは東北大 4 人で集団のペースを保つように走った。山形大の選手が 8km からペースを上げ、集団が崩壊した。しかし対応できずに集団から離れることになった。そこからはなんとかペースを保ち 10 着でゴールした。

・感想

16km を走るといい続けて 4 年、1 年間かけて準備をしていたが思うような走りはできなかった。昨年の M2 の卒業に加えて 4 年生も全員引退する状況下で異例の早さでの世代交代を強いられた 1 年間だった。1,2 年生の台頭、最後の最後に仕上げてきたエースの復帰にも助けられ、突貫工事気味ではあったもの 1 年間かけてチームを立て直すことができたことだけは自分を褒めたい。

不完全燃焼だった今回の走りは全日本本戦で挽回したい。今後とも応援宜しくお願いします。

・10km の部

木村秀(6) 32:05（全体 1 位）

スタート直後から先頭でレースを展開した。1km 地点で山形大学の後続と 20 秒近く差をつけ、その後も飛び出した勢いのまま差を広げた。5km ほどで、16km の部でつけられていた差は解消され、その後も毎周回で差が広がった。

後半 3km ほどで一度ペースが落ちるものの、ラスト1 km でスパート、再度ペースを上げて山形大学の選手に1分 50 秒差をつけてゴールした。

深澤昇悟(2) 33:30（全体 2 位）

今回、全日本大学駅伝の予選会 10km の部に出場させていたのでその振り返りをしていきたいと思います。

レース展開としては木村先輩が先頭を独走し、自分は第 2 集団を東北大の 3 人でコントロールする形となりました。第 2 集団では終始東北大の 3 人でレー

スを引っ張り、残り 2km を切ってからスパートをかけ、33 分 30 秒でゴールしました。レース中盤で木村先輩の力走により山形大との差を逆転していたため、後半は山形大の選手に 3 人でしっかり勝つということを意識してレースを進めました。

レースの反省点は 16km のメンバーと比べて走力不足ははっきりと感じられたが、レース本番のなかでできたと思われる改善点としてはスパートのかけるタイミングを早めることだと思います。スローな入りで足に余力があることは分かっていたのでスパートをかけるのを躊躇してしまったことはもったいなかったと思いました。

〇予選会の総評と全日本大学駅伝の抱負

長距離 PC の坂本順です。私は今回選手として走ることができませんでしたが、選手の素晴らしい力走のおかげで、見事全日本大学駅伝の出場権を獲得することができました。応援してくださった関係者の皆様、本当にありがとうございました。

昨年までの主力選手が多く抜けた今年は、院生の豊富な経験と下級生の勢いが融合したチームとなっています。本戦では昨年わずかに達成できなかった部記録(5 時間 41 分 20 秒)の更新を目指し、精一杯走りぬきます。今後も長距離パート並びに東北大学陸上部の応援をよろしくお願いします。

東北大学陸上競技部長距離 PC　坂本順

最後に、予選会でのたくさんの応援やサポート本当にありがとうございました。

薮下温司(M1)　33:43(全体3位)

先頭 1 人を除いて 1km あたり 3 分 20 秒～3 分 25 秒のスローペースで集団が進んだ。7km～8km くらいから仕掛け合いが始まったが、慌てることなく冷静に対応して 3 着でゴール。

鳥山拓実(2)　33:45(全体4位)

集合写真

◎天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会（9/9～9/11）

～たけびしスタジアム京都～

各地区の予選を勝ち抜いた選手や、ハイレベルな参加標準記録を突破した選手など全国の猛者が集うこの大会に、東北大学からも9名の選手が出場しました。リザルトと観戦記を紹介します。

男子10000m決勝

DNF 向田祐翔（2）

こまめに水分は取っていたものの、気温、湿度共に高く、招集から競技開始までの時間が長かったことから、汗を異常にかいてしまい、軽く脱水になってしまった。また、エントリーリストからわかっていたことではあるが、私のみが PB が 31 分台であり、全員が格上の試合であったことから、ついて行かずに単独走を選択したが、あまりの実力差に心が折れてしまい、DNF となった。

男子400mH予選

2組7着　加地拓弥（M2）　53.83

スタートは良く、1 台目までリズムよく加速する。しかし、2 台目以降、普段より 1 歩増やした 15 歩でレースを進め窮屈な走りとハードリングとなってしまいスピードに乗り切れず、周囲との差が広がっていく。5 台目を越えてから粘りを見せるが、差を縮めることはできずホームストレートへ。しかし、粘り切ることが出来ず 9 台目で 16 歩となってしまい、さらに減速してしまい 7 着でフィニッシュ。

昨年に引き続き 400mH と 4×400mR の 2 種目に出場し、両種目とも予選敗退という結果でした。7 月初旬に左ハムストリングスを怪我してから、リハビリを重ねて最後の最後で走りの調子を上げることができました。しかし、左足リードのハードリングの際の痛みと張り感が前日になっても消えなかったため、普段より 1 歩増やしたレースプランで臨みました。結果、最後のレースで不甲斐ない記録となってしまい、皆さまのご期待に応えることが出来なかったことが心残りですが、ここまでやり切れたことに悔いはありません。応援・サポートしてくださった方々に感謝申し上げます。また、この 6 年間集中して競技に取り組むことが出来たのも、部長、監督をはじめ陸上部を支えてくださった先生や幹部部員たち、そして OB・OG の皆様の多大なるご支援・ご声援のおかげです。ありがとうございました。

男子4×400mR予選

1組5着　3:13.08

上村（M1）-佐藤（4）-千葉（4）-加地（M2）

1 走の上村は、瞬発力のあるスタートののち、前半から飛ばす他校の選手を見つつラストまでスピードを落とさずに流れを作った。5~6 着でバトンパス。2 走の佐藤は前半からストライドを大きくとりスピードを出しつつ、後半の減速を抑え前のチームとの差を詰めた。5 着でバトンパス。3 走の千葉は持ち前の持久力を活かし後半まで前のチームを追い、ラストで差を詰めた。5 着でバトンパス。4 走の加地は前のチームとともに攻めた走りで終始飛ばし、上位チームを猛追した。5 着でゴール。

本大会は、大会直前まで出走メンバーの競争が続く中、LS 専門の加地、佐藤に加え、主要大会初出場の SS の上村およびミドルの千葉が選出された。結果は部歴代 3 位かつ 2022 シーズンのセカンドベストであった。このことはマイルチームのレベル向上および今後の可能性を示しており、来シーズンの飛躍につながるものであったとチーム内で評価している。

男子10種競技決勝

DNF 根本大輝（3）

男子十種競技 100m

4組 7 着 根本大輝　11.72(-0.2) 707 点

足首の怪我はありつつも今季ベストに 0.07 と迫る記録で 1 種目を終えた.

男子十種競技走幅跳

2組 11 等 根本大輝　6m27(-0.4) 646 点

第 1 試技でこの記録を出す. 第 2 試技で修正を試みるも怪我により伸び悩む. 第 3 試技をパスし, この競技を終えた. それ以降の競技を怪我により途中棄権した.

女子800m予選

2組6着　菅田理乃(2)　2:12.84

スタートからとばしブレイク後、4 番手くらいの位置につく。400～500m で2人の選手に抜かれる。その後、先頭集団についていけなくなり差が広がっていく。6 着でゴール。

女子400mH予選

DNF　山崎萌々子(4)

女子走高跳決勝

NM　原田萌々子(2)

公式練習が 1m60 で 2 本あった。助走はよく走れていたが、ピークを合わせきることができなかった。試合は 1m65 から開始。1 本目は腰まで浮いたもののバーを超えきれなかった。2, 3 本目と調子を上げることができず、NM となった。

自分の PB よりも高い高さからから試技開始となったため NM となってしまったが、今後の課題も見つけられ良い経験となった。

◎第35回国公立27大学対校陸上競技大会(9/20～9/22)～上尾運動公園陸上競技場～

新型コロナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催となった今大会。悪天候の中でしたが、複数の選手が入賞、PB を更新するなど健闘しました。対校種目に出場した選手のリザルトと観戦記を紹介します。

男子100m予選

DNS　藤井大睦(4)

2組2着　八巻隼人(M2)　11.27(+0.5)

5組3着　古俣諒大(6)　11.28(−1.3)

男子100m準決勝

1組6着　古俣諒大(6)　11.17(+0.1)

3組7着　八巻隼人(M2)　11.31(−1.3)

女子100m予選

2組3着　菊池志乃(1)　13.16(−0.5)

スタートは遅れることが無かったが、中間疾走が上手くいかず、後半でスピードが落ちてしまった。

女子100m準決勝

1組5着　菊池志乃(1)　13.05(−0.5)

予選の反省を活かし、中間疾走でのスピードの上げ方は上手くいくも、スタートで大きく出遅れてしまった。

男子200m予選

3組2着　片桐大智(M1)　22.70(+0.1)

前半 100m では出遅れたが直線を落ち着いて走り 2 着でゴール。

6組3着　八巻隼人(M2)　22.73(+0.7)

7組3着　西尾陸大(2)　23.08(+0.2)

男子200m準決勝

DNS　八巻隼人(M2)

3組4着　片桐大智(M1)　22.23(+1.5)

前半 100m でスムーズに加速し後半につながる走りをすることができた。後半トップからはなされたが粘り 4 着でゴール。

男子200m決勝

7位　片桐大智(M1)　22.55(+1.1)

前半から動きが悪く、楽に加速することができなかった。後半もトップから離され 7 着でゴール。

男子400m

DNS　斉藤宥哉(3)

DNS　佐藤千仁(4)

9組1着　佐藤芳樹(5)　50.45

男子400m準決勝

1組1着　佐藤芳樹(5)　49.96

男子400m決勝

2位　佐藤芳樹(5)　49.90

女子400m予選

1組1着　菅田理乃(2)　59.95

ゆったりとスタートする。1 番内側のレーンだったため他の選手を見ながら走る。1 着でゴール。

2組4着　柄澤菜々美(M2)　1:02.05

加速はほどほど。100m 通過で 6 レーンに抜かれる。200m 通過は見た目横並びの 4 人を 5m 前に捉え、再加速。落ちてきた 1 人を 300m 通過で抜かし、ラス

トはピッチを維持し 6 レーンを抜いて 4 着。

4組7着　加賀谷美結（1）　1:03.93

7 レーンからのスタート。外側であったため内側の選手が見えにくい状況だったが自分のペースを崩さずに 7 着でゴール。

女子400m決勝

1位　菅田理乃（2）　56.56

スタートからとばし、先頭を走る。250m 付近から体が思うように動かずスピードがかなり落ちてしまったがそのまま 1 着でゴール。

男子800m予選

1組1着　谷口尚大（M2）　1:57.84

200m 時点で 3 着につける。残り 150m でスパートをかけ先頭でゴール。

3組5着　松岡陽太（M1）　2:02.09

ブレイクゾーンを越えてから上手く他選手の前に入れず、5 番手で 200m を通過。200~400m でペースが急激に落ちたが、察知できず、ポジションを修正できないまま 2 周目に入った。550m 辺りで先頭がスパートをかけ、2 番手以降の選手も一斉に動いたが、反応することができず、離されてしまった。そこから差を詰められないまま 5 番手でフィニッシュし、予選敗退となった。

8組2着　大塚光陽（2）　1:58.71

200m を 2 番手で通過。そのままレースを進め、650 mから先頭に出て最後は流して 2 着で準決勝進出を決めた。

男子800m準決勝

2組1着　大塚光陽（2）　1:56.01

200m を 6 番手で通過。少しずつ順位を上げていき残り 150m地点からのラストスパートで先頭に立ち、1 着で決勝進出を決めた。

3組4着　谷口尚大（M2）　1:57.18

スタートで出遅れ、200m を最後尾で通過。その後位置を上げ 3 番手についたが、先頭に離されたのちに 1 人に抜かれ 4 着でゴール。

男子800m決勝

2位　大塚光陽（2）　1:53.36

ブレイク直後から 2 番手で展開。そのままレースを進めるも 600m 以降大きく先頭に離されてそのまま 2 着でゴールした。

女子800m予選

3 組 4 着　江口真央（1）　2:32.17

1 周目、中途半端な位置とスピードで入った。後半粘れず 1 人に抜かれ4位でゴール。

5組2着　加藤ひより（M2）　2:18.07

スタートして 2 番手に付く。1 周目を 70 秒で通過し、2 番手をキープするもののラスト 100m から徐々に離され 2 着でゴール。

女子800m決勝

7 位　加藤ひより(M2)　2:23.40

7 番手に付き第 2 集団でレースを進める。2 週目からスピードが落ち、500m 付近から前方選手に離され 7 着でゴール。

男子1500m予選

2組8着　稲川亮太（3）　4:16.16

スタートし第 2 集団につきレースを進める。1000m を通過したあたりから徐々にペースを上げ、残り300m で少し離されていた集団に追いつくが、ラスト 100m は足が止まりゴール。

3組4着　尾崎祐太（2）　4:11.92

かなりのスローでスタート。ペースアップまで集団の後方でリラックスして走る。ペース アップ後は先頭集団に付き、スパート合戦になるもラスト 100m で離され 4 着でフィニッシュ。

4組15着　富田綾人（3）　4:27.08

14 番目を走っていたがラスト抜かされてしまった。**女子1500m予選**

1組 2 着　加藤ひより（M2）　5:00.82

スローペースの展開で 1 周目を 86 秒で通過する。徐々にペースが上がる中、終始集団の前方から中盤でレースを進める。ラスト 100m からスパートをかけ、2 着でゴール。

2組9着　木村瑞葉（2）　5:19.00

入りが思っていたよりも速く後方で走っていたが周りがだんだん落ちてきて 9 着でゴールした。

女子1500m決勝

DNS　加藤ひより（M2）

男子5000m決勝

2組14着　熊谷慧(1)　16:39.14

入りの 1000 を 3'20 切るくらいで楽に入り、その後落ちるのを見越して 3'25/km～3'30/km の間で押していくプランだった。入りの 1000 は 3'18 で予定通り。1500m地点くらいで自分の前に出た山梨大の選手につき、3000m付近まで 3'20/km で引いてもらった。3000m過ぎからはやや余裕がなくなり、20m前後離れるも食い下がってラスト 1000m過ぎからペースを持ち直し、残り 1 周でスパートをかけてゴールした。全体として見ると、3000m過ぎにやや垂れた点を除けば現状としては上出来であった。PBの更新幅も 42 秒と大きいが、何より冷静に自分を見つめて 5000mを走れたことが大きな自信になった。(1km 毎ラップ:3'18-3'20-3'21-3'24-3'15)

2組17着　杉山大輔(1)　17:01.12

3000m付近まで集団の後ろに付いていたが、ペースが落ちてきたと分かり前に出て単独走となった。後半はペースを徐々に上げていき 17 着でゴール。

DNS　田中伊織(1)

男子10000m決勝

1組21着　矢島由弦(3)　34:10.21

単純なタイムとしては 100 点に近い結果でしたが、レース展開としては 0 点でした。組の中で持ちタイム最下位＋ブランクからの復帰途上ということで 3 分 30 秒/km ペースで最下位争いをするのが精いっぱいだろうと考えていたのですが、当日の気象条件にも恵まれ 3 分 25 秒/km のペースを単独走で刻んでいけました。それだけに最初自重しすぎて前に誰もいない状態になってしまったことが悔やまれます。どうせならここで 34 分を切っておきたかったなと後の祭りですが思います。

2組7着　緑川翔太(3)　33:13.47

男子110mH予選

1組2着　岡田幹太(3)　15.01(+1.3)

1 台目のアプローチがうまくいき、良いリズムで快走。ラストでバランスを崩すも 2 着でゴール。

2組2着　鈴木健大(M2)　15.58(-0.2)

勢いはそれほどなかったがスタートからスムーズな入りで先頭を争う。7 台目以降、連続で脚をハードルにぶつけてしまい失速。2 着でタイムも奮わず決勝進出を逃した。

5組5着　西里碧澄(1)　15.77(-0.2)

アップの時間が少なく寒かったので体が動くか心配だったが、1 台目までの入りは良かった。2 台目以降は全体的に少し浮きすぎたハードリングとなってしまい、後半失速して 5 着となった。

男子110mH決勝

4位　岡田幹太(3)　15.08(0.0)

8 台目まで過去一の良い走りだったが、9 台目でハードルにクラッシュし減速。そのまま 4 着でゴール。自己ベスト更新を狙っていたため悔しい結果となった。

女子100mH予選

DNS　山崎萌々子(4)

DQ　西條絵莉香(3)

男子400mH予選

DNS　阿部竜胆(1)

3組2着　二ノ神遼(5)　55.99

前半はバックストレートの追い風を受けリラックスしながらハードルを越える。終始 2 番手でレースを進め、そのまま 2 着でフィニッシュ。プラスの 1 番目で決勝進出。

4組1着　池谷駿(2)　55.53

男子400mH決勝

4位　池谷駿(2)

6 位　二ノ神遼(5)　記録なし

予選の疲労が見え、前半からスピードに乗り切れずレースから完全に置いていかれる。後半も粘れず 6 着でフィニッシュ。機械トラブル(?)によりタイムは残らなかったがシーズンワースト相当。

女子400mH予選

1 組 5 着　加賀谷美結(1)　1:11.94

足が合わせられなかったものの、疲れた中での歩数調整はしっかり行うことができた。きざんだ走りで 5 着でゴール。

2組3着　柄澤菜々美(M2)　1:06.57

強風により5台目が少し遠くリズムを乱したものの、7台目まで2番手を保持。8台目でわずかに後れをとり、最後まで追いかけるが3番でフィニッシュ。着順は逃したがタイムの2番目(全体8番目)で決勝進出。

女子400mH決勝

7位　柄澤菜々美(M2)　1:07.17

風は弱まらないままきついカーブでスタート。アプローチは上手く加速できたが、3 台目のピッチアップに失敗。4 台目は詰まりながら 1 歩増やした。5 台目は歩数を戻して持ち直し、カーブでのピッチアップで6、7 番手を追う。前 5 名と後ろ 3 名の展開。10 台目以降は疲れて 8 番でフィニッシュ。1 名失格判定があり 7 位へ繰り上がり。

男子3000mSC決勝

2組11着　稲川亮太(3)　10:36.73

3組1着　村松兼志(M2)　10:00.04

スタート後先頭集団に位置取り、レースを進める。1000 m は 3'13 で通過。その後ペースが落ちた 1500 m 辺りで先頭に出て集団を引っ張る。2000 m は 6'41 で通過。ラスト 1000 m は独走状態となりペースを上げて 1 着でフィニッシュ。初めての 3000 mSC だったのでペース変動が大きく展開は悪かったがある程度のタイムで走ることができた。

3組10着　菅原大地(1)　11:05.86

大学でははじめての3000m障害のレースとなったが、自己ベストを更新することができた。しかし、ラップタイムを見ると 1000m すぎから一気にペースが落ちていたので、jog から見直して基礎体力を作っていきたい。

男子10000mW決勝

DNS　杉山大輔(1)

DNS　辻本隆文(4)

男子4×100mR予選

2組3着　42.63

上村(M1)-八巻(M2)-西尾(2)-古俣(6)

男子4×100mR決勝

7位　42.62

上村(M1)-八巻(M2)-西尾(2)-古俣(6)

男子4×400mR予選

1組1着　3:19.33

上村(M1)-西尾(2)-川野輪(2)-池谷(2)

1走の上村は2レーン外の東農工大学に先行されるものの後半も安定感のある走りで 2 番手でバトンパス。2 走は西尾。200m 地点で前のチームとの距離を詰め切る。後続からの猛追を受けるも最後には差を広げ2番手のままバトンパス。3走の川野輪は後続の東工大に抜かされるも1つ前のチームについて行く。最後の直線で前の2チームを抜かし、1番手でバトンパス。4走の池谷は2番手のチームに先行されるも後ろをぴったりと着き、後半で仕掛ける。最後は余裕のある引き離し方で1着フィニッシュ。

男子4×400mR決勝

2位　3:18.84

片桐(M1)-西尾(2)-川野輪(2)-池谷(2)

1 走の片桐は速い速度で前半を走り抜け、最後まで伸び切る安定感のある走りで 4 番手でバトンパス。2 走の西尾は、前半しっかりとした加速で先頭集団につく。その後は後続を大きく突き放しそのまま 3 番手でバトンパス。3 走の川野輪は、前半は先頭集団から離れ 4 位に落ちる。後半に 1 つまた順位を戻し 3 番手でバトンパス。4 走の池谷は前半で前の2チームに追いつき、最後の直線で 1 チームを抜かし 2 着でフィニッシュ。

女子4×400mR予選

2組2着　4:03.73

菊池(1)-加賀谷(1)-菅田(2)-山崎(4)

5 レーンからスタート。1 走の菊地は外側の選手を追い上げ、3 番手で 2 走へ。加賀谷はスムーズにブレイクし、ラストは 2 人の選手と競り合いながら 3 走へ。菅田は序盤に抜け出し後方との差を広げる。直線でさらに1をかわし2番手で4走へ。山崎は3番手との差を大きく広げ、そのまま2着でフィニッシュ。

女子4×400mR決勝

5位　4:04.72

菊池(1)-山崎(4)-加賀谷(1)-菅田(2)

8レーンからスタート。1 走の菊地は内側から追い上げを受けながらもペースを乱すことなく 2 走へ。山崎はバックストレートを大きな走りで通過し、直線に入り 2 人をかわして 3 走へ。加賀谷は前の選手に食らい

つき、順位を落とすことなく 4 走へ。菅田は前半で 2 人かわし、後方との差を広げながら 5 着でフィニッシュ。

男子走高跳決勝

8位　嶋崎雄飛(3)　1m85

NM　高橋潤(M2)

1m80 xxx

1 本目は上手く踏み切れずに失敗。2 本目は踏み切りで流れてしまい失敗。3 本目でようやく高さのある跳躍が出来たが踵で引っ掛けて失敗。ピークがバーの奥になってしまった。

スピードに乗った助走ができた一方で、踏み切りが終始流れ気味だった。やっと噛み合い始めたところで試合が終わってしまった。踏み切りの改善だけでなく、大事な場面でその日最高の跳躍を出せるようにレースプランを工夫したい。

DNS　毛内達也(3)

男子棒高跳決勝

3位　島村惟葵(1)　4m30

6位　赤星栄治(M2)　3m90

女子棒高跳決勝

NM　村尾愛乃(2)

練習跳躍のバーの高さが 2m10、試技の最初のバーの高さは 2m20 であり、自己記録の 2m以上のスタートとなった。以前の大会よりも跳躍に改善が見られてきたが、力及ばずNMとなった。

男子走幅跳決勝

8位　細島慎友(4)　6m78(+1.5)

大雨の中での試合にしては悪くない記録だと思うが, 不完全燃焼で終わってしまった. 1 本目は踏切板に乗らなかったため記録が伸びなかった. 2 本目で 1 本目の修正をすることができ, 6m78 を跳ぶことができた. しかし, 2 本目跳躍後に右足首を痛めたため 3 本目はパスした. 4 本目はなんとか跳ぶことができたが, 足首の痛みが大きくなったので 5,6 本目はパスし, 試合を終えた. 実力が発揮できずに終わってしまい悔いが残る結果になってしまった.

19位　柴原朋也(M2)　6m40(+2.8)

26位　古俣諒大(6)　6m30(+0.5)女子走幅跳決勝

12 位　伊藤未空(3)　4m93(−0.5)

1 本目　4m63cm

助走は悪くなかったが、向かい風の影響で足が踏切板に届かず、間延びしてしまった。その結果、スピードが急激に落ちて失敗跳躍となった。

2 本目　4m69cm

1 本目の反省を生かし、助走距離を縮めた。距離的には良かったが、空中動作の姿勢で足が落ちてしまい、距離を伸ばすことが出来なかった。

3 本目　4m93cm

1・2 本目の課題を修正することが出来たが、踏み切りの際に若干間延びしてしまった。

以前からの課題である「助走の安定性」に関しては、克服できた。しかし、1・2 本目を失敗してしまったことにより、気持ち的に追い込まれたまま 3 本目を迎えてしまったことは、反省点である。助走などの調子はそれほど悪くなかったため、気持ちを切り替えて次回以降の試合に備えたい。

22 位　村尾愛乃(2)　4m22(+0.8)

対抗女子棒高跳と試技の時間が重なっており、競技を行き来していたため、疲れが出てしまった。助走や踏切姿勢が崩れ、記録が低迷した。

男子三段跳決勝

10位　大谷航平(3)　13m85(−0.2)

1 本目　13m85(-0.2)

助走はいつもよりも上手く走ることができ、スピードは出た。しかし、踏切時に若干身体が後傾したこともあってステップ、ジャンプが上手くハマらず、あまり記録が伸びなかった。

2 本目　13m75(?)

ステップジャンプで上手くバランスをとって跳ぶことを意識したが、結果的にはステップで潰れてしまい、無理やりジャンプで記録を伸ばそうとした。結果的に 1 本目より跳ぶことはできなかった。

3 本目　12m75(?)

この時点でベスト 8 に残っていなかったため、

気合を入れて臨んだ。助走スピードは最も速かったが、スピードに耐えられず踏切の時点で潰れてしまい、最後まで持っていくことができなかった。

26位 久保田大聖(2) 13m10(+0.5)

(1 本目 F)：ホップ、ステップとスピードを維持したまま跳ねたが、ステップで前方回転がかかってジャンプが前のめりになり過ぎて着地に失敗した。

(2 本目 13m10)：踏切手前のピッチアップでバランスを崩し、ホップが低くなりすぎてステップ、ジャンプも距離の出ない跳躍になった。

(3 本目 F)：1、2 本目の反省点はある程度修正出来て目立った崩れはない跳躍が出来た。そこそこ距離は出たが、2 センチ程ファールしてしまった。

29位 大木島壮(4) 13m01(+2.4)

足首や腰の痛みを抱えたまま試合に出場したため記録は狙えなかった。その中で、楽しみながら試合できたと同時にホップ・ステップ・ジャンプのバランスがとれた跳躍ができた点はポジティブに捉えたい。また大学生活で出場する試合は残り 1 つになったので、今後は怪我の治療に注力していきたいと思う。

男子砲丸投決勝

DNS 得丸恭隆(1)

DNS 大野誠尚(M1)

男子ハンマー投決勝

8位 金岡有途(1) 20m45

男子やり投決勝

11位 秋場湧太(5) 46m21

助走が合わなかったため、全体的に上半身だけでの投げとなった。3 投目になりようやく投げのタイミングが合ってきたため記録を伸ばすことはできたもののベストにはほど遠い記録となった。今後課題である助走固めおよびブロッキング動作の練習を行い、記録の向上を目指す。

DNS 米井潤風(M2)

男子10種競技決勝

4位 米井潤風(M1) 5432 点

もともとは秋シーズンの初戦としてかなり照準を合わせて挑む予定だった試合であったが、股間節の調子が全然よくならなかったので 10 月の東北個人の前哨戦として、けがなくすべてやり切ることを目標に挑んだ。初日は台風による雨風との戦いで、東北インカレの再来(いや、それ以上)であった。アップの段階では体も動いていい感じなのではと思っていたが、100m、走幅跳でその希望はついえた。「今回は記録よりも順位を狙いに行こう」と路線変更し、砲丸投以降は気楽に構えながら競技した。しかし追い打ちをかけるように走高跳で雨風が強まってきて、肉体的にも精神的にも追い込まれたが、走高跳で同競技者たちがお互い励ましあうことで何とか気持ちを落とさずに済んだ。ここが東北インカレからの成長といえる。最後の 400m ではやはり体力的に厳しく、最後ばててしまった。2 日目は天気もよく、気温もちょうどで気持ちも好調でスタートした。110mH と円盤投、棒高跳で PB(タイ含む)で、円盤投では種目1位を獲得できた。ただ心残りは最後の 1500m で 3 位に食い込めなかったことである。9 種目までで 4 位であり、3 位と 20 点差ほどであったので勝つべき場面であったにも関わらず、最後粘り切れず、4 位のまま終わってしまった。思えば 3 位の選手はずっと私の後ろについて最後に追い抜いて勝つための戦略的な競技ができていたと思う。くそ、やられたな。脱帽。総じて今回は「歴代で 1 番苦しかった」。強い向かい風、大雨、体力を奪われた 2 日目は体が動くし、1500m での数十点差。記録もうまく出ないのに諦めちゃいけない場面が多かったと感じ、戦略的な競技力が試された。ただ 15 点だけだが PB を更新したのは及第点である。次の東北個人では 5700 点を目標にします。

5位 小出寿啓(3) 4829 点

前日の段階で台風による大雨強風の予報。すでに気持ちが乗っておらず。第1種目の 100m では雨風ともに強く、身体が冷えてしまった。走幅跳で巻き返そうと思ったが、力んでしまい 2F。3 本目は記録を残そうとして踏切板の手前で減速。これで集中力が切れてしまった。砲丸と円盤は公式 PB だが、ともに練習の時よりも大幅に低い記録。棒高跳では左上腕三頭筋を肉離れし、NM。反省仕様のない内容であった。

◎自己ベスト更新者一覧(8/22～10/3)

・男子200m

片桐大智(M1)22.23(+1.5) 27大戦(9/21)

・男子800m

大塚光陽(2)1:53.36 27大戦(9/22) 部歴代3位

・男子5000m

熊谷慧(1)16:39.14 27大戦(9/21)

杉山大輔(1)17:01.12 27大戦(9/21)

・男子3000mSC

菅原大地(1) 11:05.86 27大戦(9/21)

・男子10000m

緑川翔太(3)33:13.47 27大戦(9/22)

・男子10種競技

米井潤風(M1)5432 点 27大戦(9/20,21)

◎今後の予定

11月6日 秩父宮賜盃第54回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県名古屋市～三重県伊勢市)

11月12日 秋保マラソン(仙台市 秋保)

11月20日 第76回宮城県駅伝競走大会(石巻市)

◎編集後記

先日の予選会では、男子チームが 3 大会連続となる全日本大学駅伝出場を決め、部記録更新という目標に向け練習に励んでいます。各種大会において複数の選手が入賞、PB を更新するなどチームが活気づいている中、トラックシーズンの終盤、駅伝シーズンへと向かっていきます。OB、OG の皆様、引き続きたくさんのご声援をよろしくお願いします。

文責 OBOG 通信担当 須藤桃由

編集補助 牧野雅紘、酒井健

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp